



東堂山満福寺に設置された「鎮魂と復興の碑」

福島の“石”を岡崎の“技”で

東堂山満福寺に「鎮魂と復興の碑」設置

東堂山満福寺に「鎮魂と復興の碑」が設置されました。この石碑は、東日本大震災による犠牲者の鎮魂と、これからの復興への思いを込めて、福島県石材事業協同組合と岡崎製品協同組合連合会が共同で制作したものです。福島県産の石を材料に、愛知県岡崎市の石職人が加工して作り上げました。

東堂山満福寺の住職がその趣旨に賛同し、石碑を満福寺境内へ設置することになりました。

羅漢像と並び、訪れる人々に癒しと安らぎを与えてくれる空間がまた一つ加わりました。

思い出を胸に

第45期寿大学閉講式

第45期寿大学閉講式が昨年12月18日、勤労青少年ホームで行われました。

寿大学は教育委員会生涯学習事業の一環として、高齢者の皆さんの生きがいづくりを目的に開設され、今回で45期目を数えます。今年度は178人の学生の皆さんが書道、編み物、グラウンドゴルフなど8つのクラブに分かれ、年間8回のクラブ活動のほか、秋の現場学習などを行いました。

閉講式では、町長が「仲間と協力し合い、喜びを作り上げる、皆さんの学びの場であり、本大学での活動が皆さんの生きがいにつながっていくことは、学長として大変うれしく思う」と式辞を述べました。

この後、終了生を代表し、藤井隆治寿大学運営委員長が「仲間と共に有意義な学生生活を送ることができた。この大学で得たことを生かして地域社会に貢献していきたい」と謝辞を述べ、閉講式が終了しました。

引き続き教養講座が実施され、株式会社リードシステム 上級食育指導士・管理栄養士の井上真由美先生を講師に迎え「健康寿命を延ばしましょう」と題した講演会が行われました。井上先生は「年々伸びてくる日本人の平均寿命より、健康で生活できる健康寿命を継続することが大切であり、栄養のバランス、適度の運動、十分な休養が大切である」と講演しました。講演では、着ぐるみを着て登場した素敵なゲストの皆さんによる明るく楽しい説明や目の前での実験が行われ、ジュースなどの糖分量や即席商品の塩分の多さなど、分かりやすく解説されました。

学生の皆さんは時には笑い、時には驚き、真剣に話に聞き入っていました。



閉講式の様子